
2024 年 9 月 21 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

テーマ『すべての自分を無条件で抱きしめる』

神聖顕現を志して生きる私たちみんなが悟りを開き、名実ともに神我一体の段階に至る時旬が間近に迫っているなかで、「今一步の壁に突き当たっていて…」とのお話を伺うことが時々あります。

それは、神聖復活目前にありながら、フィルターがかかった目で自分を見てしまい、自身の正確な現状を俯瞰できなくなっている状態であります。言い換えますとそれは、自分に対する評価が極端に高すぎたり低すぎたりする状態です。

そうした状態は様々な想いとなって表われますが、代表的な状態として次の 4 つがあげられます。

- ・「誰々は出来ているのに、自分はダメなんだ」と自身を裁き、ネガティブの烙印を押す
- ・「自分は神聖復活なんて出来ない、無理だ」と心を閉ざし目耳を塞ぐ
- ・「私は神聖復活したから自分磨きなんか必要ない」と勘違いする
- ・「私はもっとみんなから敬われて然るべきだ」と自惚れる

それら 4 つの性質をよくよく眺めてみますと、すべてに共感しないまでも、どれか 1 つには既視感を感じられるのではないのでしょうか。なぜならこれらの性質は、老子が説く「無為にしてなす」の境地に還りゆく途中で、過去世からの縁に応じて誰もが通る通り道だからです。

そのように、理想と現実の狭間で自らを責めたり、「自分なんて」と心の洞窟にこもったり、「我こそは」と実力以上に背伸びしたりすることは、振り子が左右に振れながら中心へ収束してゆくのと同じように、心が左右にぶれながらも、いのちが輝き顕われた状態に還元してゆく状態だといえます。

また、心理学の世界に『マズローの欲求五段階説』がありますが、私はそれらに二つの段階を加えて、人類共通の欲求には『七つの段階』があると思っております。それは次のような段階です。

1. 生理的欲求 ～ 生きていくために必要な基本的・本能的欲求
2. 安全の欲求 ～ 安心して生きてゆくために必要な基本的・本能的欲求
3. 社会的欲求 ～ 関わりの強い人々と確かな繋がりを感じていたい欲求
4. 承認欲求 ～ 褒められたい、好かれたい、尊敬されたい、出世したいといった認められたい欲求
5. 自己実現欲求 ～ 自分の世界観・人生観に基づいて「満たされたい」と願う欲求
6. 霊性開発欲求 ～ 肉体身にとどまらず、自らの魂を開発したいと願う段階
7. 神性開発欲求 ～ 肉体身を超越して、生命の本質を開発したいと願う段階

私たちはいうまでもなく第 6 の段階にありながら、第 7 段階を志向しつつ生きています。私たちが「自らの魂を開発したい」と願っていることは、「宇宙を創造した大生命そのものの性質を自らの想念・言動・行為に顕わしたい」と願っている状態であるとも言い換えられます。

そうしたなかであって私たちの心には一部、今も上記 7 段階のうち 3 から 5 の段階の消えてゆく姿の想いが潜んでいる場合があります。

どうして神性開発を志向しながら二元対立の世界にしか通用しない欠乏欲求への渴望が起こるかと申しますと、自分が自らを赦し愛しきっていない部分があるためです。その程度に応じて、他との関係性のなかで外へ向かって「認められたい」と願う消えてゆく姿の想いが表われ消えてゆくのです。

しかしながら、いくら他者から認められたとしても、自分自身がどんな自分をも認め、愛し、受け容れていまして、人に褒められても自分自身が納得していないため、欠乏欲求の段階を卒業することが出来ないでいるといった状況が生じます。

私たち個々が「肉体こそが自分である」と思っている間は、感じた欠乏を他者に要求したり、外に求めたりする想いの癖がありますが、それらの状況は、自分が自らを本当に赦し、心底から愛しきることによって解決します。

そのようなプロセスのなかで、私たちは自らを卑下したり、ときに高慢に陥ったりします。生きていれば誰もが人生のなかで、意識するとしなやかにかかわらず、被害者になったり加害者になったりしていますが、内側へ向いた想いのベクトルが他者との関係性のなかで、卑下か高慢のどちらかに偏った精神状態になっているわけです。

だからといって、「卑下や高慢はよくないからそれを無くそう」というものではありません。卑下や高慢を抑えても、原因になっている心内の不調和が消えないかぎり、自然法爾(じねんほうに)の境涯は依然として遠いまだからです。

大切なことは、卑下や高慢の原因になっている心の中の不和状態をしっかりと観て、認識したうえで抱きしめることです。それによって心を根本的に調和させてゆけば、卑下も高慢も自然に影を潜めてゆきます。

土曜日の夜は、自分がまだ気が付けていない自分、自分に見つけてもらえていない自分に光を当てて、たとえそれがどんな自分であったとしても、すべての自分を無条件で赦し、愛し、認め、抱きしめる時間にしてまいります。

それによって私たちは、前述の7段階の6段階目と7段階目でやるべきことに集中して、すべての力を注ぐことができるため、神聖復活が加速してゆきます。

★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆

2024年9月21日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 初めの話

皆様、こんばんは。土曜日夜の『神聖で繋がり合う日』のプログラムを始めます。木曜日に送信したメールのなかで、『マズローの欲求五段階説』に二つの段階を加えて、人類共通の欲求には『七つの段階』があると書きました。

そのときに、私たちは6段階目にあって、7段階目を目指していると書きましたが、すでに7段階目に入られている方々も全国にたくさんおられることを、はじめに付け加えてお伝えします。

また、「自分がまだ気が付けていない自分、自分に見つけてもらえていない自分に光を当てて、たとえそれがどんな自分であったとしても、すべての自分を無条件で赦し、愛し、認め、抱きしめる時間にしてまいりましょう」と書きましたが、それは、本当に消えてゆく姿の行ないを実践することでもあります。

どうして、すべての自分を無条件に赦し、愛し、認め、抱きしめることが消えてゆく姿の実践になるかを今からお伝えします。

私たちの意識は、心の両足が完全に神聖の境涯に立っていない場合には、たいていの場合において、卑下か高慢のどちらかに偏った想いの癖を持っています。そのうえ、そういう境涯にあるときには、正直に自分を観て、今心のなかにどういう想いの癖があって、自分がいったい何をしているのかを、客観的に観ることが出来ないでいます。

自分自身の実態をそのように、正直かつ正確に観ることが出来ないときに、私たちは自分を卑下して観たり、高慢な想いに支配されたりしてしまうわけです。

そのようなときに効果的なのは、お祈りをたくさんしたり、印を何回も組んだりして、心のなかに神聖の光、世界平和の祈りの大光明を流し込んで、暗闇になっていた心の部分をも白日の下に照らして観つめることです。

そうしますと、「こんな自分がいたのか」「こんな想いがあったのか」という、内容によっては目を背けたくないような想いの塊を観ることが出来ます。そうして、“存在していた事実を認識した自分”を、無条件で抱きしめてあげるのです。そのときには、なんのジャッジ、批判・非難・評価もいりませんし、余計な言葉もいりません。

ただただ慈しむ心でもって、霊体・神体の腕で成仏していない自分の想いを抱擁してあげることです。それがイメージしにくい場合には、9月大行事の時に、ご先祖や縁者との交流の時に行なっているように、肉体の腕で自分自身を抱きしめてあげるのが効果的です。

そのようにして自らを抱きしめることは、神聖の自分が成仏していない自分を抱きしめていることになると同時に、守護霊さまが私たちを抱きしめてくださっている事実を実感することにもなり、認識した短所、認めた欠点を守護霊さまに手渡しして、いのちの光で洗い浄めてくださることに繋がってまいります。

いつまでも自分自身の心の正確な実態・実像を観ないようにしたり、そもそも観ようとしめない状態をつづけていますと、守護の神霊は、私たちにそれを気が付かせるために、苦悩の経験をさせてくださいます。それが病気や怪我なり、人間関係の不調和なり、経済的な問題なりとして表われて消えてゆくわけです。

そのことは『人間と真実の生き方』に、「この世のなかのすべての苦悩は、人間の過去世から現在にいたる誤る想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である」とはっきりと明記されています。ですから、自分自身を正直に観て、「心を調和させる」「心を平和にする」ということが、一番大切な、一生を通して取り組む課題なのではないかと思って7ます。

そこで本日は、最後の神聖復活の印は7回に減らして、その分の時間を、自分がまだ気が付けていない自分、自分に見つけてもらえていない自分に光を当てて、たとえそれがどんな自分であったとしても、すべての自分を無条件で赦し、愛し、認め、抱きしめる時間にしてまいります。

その時に、少し長めに五井先生のお話を読みますので、お話を聞きながらご自身の心を見つめ、気づきを得る時間にしていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは時間になりますので、はじめに、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1. 世界平和の祈り

世界人類が平和でありますように。

日本が平和でありますように。

私たちの天命が完うされますように。

守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.

May peace be in our homes and countries.

May our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

***★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆★☆☆

2. 自分自身のすべてを抱きしめる時間

はい、ありがとうございます。次は、自分自身のすべてを抱きしめる時間を取ってまいります。最初のお話でもお伝えしましたが、今から約 20 分間、五井先生のお話を読ませていただきます。

それを聞きながら、自分自身の心を見つめて、自分がまだ気が付けていない自分、自分に見つけてもらえていない自分に光を当てて、たとえそれがどんな自分であったとしても、すべての自分を無条件で赦し、愛し、認め、抱きしめてみてください。

ありのままそのままの自分を抱きしめる方法は、心の腕でご自身を抱きしめるイメージが出来る方はそうしてください。イメージできないと思われる方は、この肉体の腕で、自分の胴体を抱きしめてみてください。そうすると、神聖の腕で自らを抱きしめている状態を疑似体験することが出来ます。

またその状態は、守護霊さまが私たちを抱きしめてくださっている状態でもありますので、もう一つの心でそのことも思い出しながら、五井先生のお話に耳を傾けてみてください。

今回のお話では、「神様」という言葉がたくさん出て来ますが、「守護霊さま」という言葉に置き換えて聞いていただくとよくわかるところがたくさんありますのでお試しください。また、長いお話ですので、所々を抜粋する形で読ませていただきます。

このお話は、「人間が生まれ変わりを何度もしているなら、祖先というのは自分ではないのか」という質問への答えの部分から始まります。それでは始めます。

自分が祖先かということ、祖先の中に自分もいます。何遍か祖先になって生まれて来てますからね。だから祖先の中に、自分が何人かいるわけです。しかし祖先というのは自分自身ではありません。やっぱり祖先は祖先で違うものです。

もっと深くいえば、全部自分です。もっともっと深くいえば自分一人きりしかいないんだからね。けれどそういう言い方じゃなくて、当り前の言い方をすれば、「自分であった祖先が何人かいるけれども、しかし祖先が全部自分というわけじゃありません。祖先と自分はやっぱり違います」という言い方になります。

それで「祖先が迷ってて、その想いが自分に憑(かか)って来る」というけれど、それは違うんですよ。自分の中にある想いを、業を消すために、神様が”想いが憑った”というような形でもって表わして、消してくれているわけです。

だから何もものも憑るものはありません。祖先の迷いが憑って来たのではなくて、自分の想いが消えてゆく姿として現われて来てるんですよ。自分の想いが消えてゆく姿として現われて、消えてしまっ、光り輝いてしまえば、祖先が迷ったもへったくれもありません。みんな光り輝いてしまいます。

「祖先の業で自分が苦しんでいる、祖先のパカヤロー」とか、「俺を苦しめやがって」と思う人が随分あるんです。そういう言い方をするから私は、「そんなことはないんだ、自分の苦しむものはすべて自分のものです。自分のことは自分の責任です。人の所為(せい)ではない」というのです。

どんな苦しみがあっても、人の所為のように見えても、それは人の所為ではなく、自分の所為です。そう思わないと宗教の道ではないですよ。「善いことは自分がやってやったんだ、私がやってやったからあの人は善くなった」「悪いことはあいつがやったから、あいつの所為だ」というのは、宗教精神ではないのです。（中略）

口でいくら神様を説いたって、「神様、神様」といったってだめですよ。本当のものは自分の行ないにある。私が一番嫌なのは、「神様、神様」といいながら、人の粗ばっかりさがして、小言ばかりいっている人。自分がどれ程偉いと思っているのか。偉くもなんともない。小言をいったらそれだけマイナスです。

自分の感情で、自分を偉くみせたくて、人のやることなすことみんな気にいらなくて、それで人に小言ばかりいっている人がいますよ。そういうのは下の下です。そんなものは信仰でもなんでもありゃしない。愛でもって、「ああこの人が立派になりますように」といって涙をのんで小言をいう。それはすばらしい立派な小言です。それは愛の言葉なんです。（中略）

「このバカヤロー」といったって愛なんです。だけれどそうじゃない。自分を高くみせたい、自分を一段上において、人を下目にみたいと思って、小言ばかりいっているようなのは本当に下の下の下。（中略）

皆さんは、「神様、ありがとうございます」と思っていらっしゃる方々だし、平和の祈りをしている方々だから、少なくとも自分の感情で、人に小言をいわないようにして下さい。感情で人を押えつけない。自分がイライラするから人を怒るなんてのは、イライラすること自体が業なんだからね。

それを「向うの想いが憑って来た」だなんて、そんな馬鹿なことはない。向うの想いが憑って来てイライラして小言をいうなんて、そんなら、誰れかの想いが憑ったらみんなイライラしますか。

私にはみんなのいろいろな想いが憑ってくる。でも私はイライラしたことがありゃしないですよ。小言をいったって、大声で叱ったって、すぐ後でニコニコとする。それは感情でいわないからですよ。

みんなもためしにやってみなさい。感情でもって「このバカヤロー」といって、あとでニコニコと出来たら偉いから。そういう練習をしてみなさい。小言をいうんだったら、ガガーッととっても後でやさしくニコニコと出来るような小言なら、大いにいって下さい。

愛がこの中に一杯あって、行いう行ないなら、小言をいおうと、やさしくしようと、それはすべて神様のみ心だから、向うをよくすることが出来ます。だげども愛がないくせに、自分の感情だけで怒っておいて、それで怒ったことを人の責任にする。

「あいつが悪いから、あれの想いが私にうつって来たんだ」そんなバカなことがどこにあるか。そういうのは言いわけにすぎない。だから、柔和なるものを嗣（つ）がん。明るいやさしい愛の心で充満した自分がいなければだめですよ。いつでも愛が深くなきゃだめですよ。

怒ろうと思っても一遍こらえなさいよ。「ああ、これは消えてゆく姿なんだな、世界人類が平和でありますように、あの人の天命が完うされますように、自分の天命も完うしますように」、そういう風に祈れば、これは両方の天命が完うするでしょ。全然人の責任なんかじゃないんですよ。

自分の中に出てくるものは、全部自分の責任。相手にぶんなぐられて腹が立っても、自分の責任です。こっちに理があって、向うに理がなくてぶんなぐられても、ぶんなぐられた場合には、自分の中に何かぶんなぐられる原因があるんですよ。

向うに代って、中にあるのを神様は消して下さるんだ。悪い人のようにみせて消して下さるんだ。その時、「あー、これで私の業が消えたんだな、有難うございます。なぐって下さって有難うございます」と思えるようになれば本物です。私もそうやってここまでなったんです。

だから、皆さんもあらゆるどんな迫害を受けても、どんなに自分に都合が悪いことが起きても、「相手が悪いんだ」と思う心を捨てて、「ああ、自分の中のものが消えたんだな、ああ消して下さって、神様、ありがとうございます」と、いえるような人間になって下さいよ。お願いだから。

それが世界平和の祈りの同志に対して、私が一番望む所です。私はそればかり望んでいる。「ああ、みんながそうなって下さればいいな」と思うんですね。（中略）

神様の世界が本当に現われる時には、おまけなしですよ。一寸でも心を動かしたら、パッとやられるけれど、皆さんは、「ああ、ごめんなさい」とか、「消えてゆく姿」とか思えば、それを消してくれて赦してくれます。守護霊・守護神がいますからね。

だけれども、本当に一日も早く神様と同じような人間になるためには、自分が本当に幸せになるためには、あらゆるものをすべて赦す気持ちにならなければだめですよ。あらゆるものに感謝しなきゃだめだ。

自分に都合のいいことに感謝するのは誰にでも出来る。お金が足りない時にお金をくれた、「ありがたいな、あの人は神様だ」っていうかもしれない。お金が足りない時に盗っていった奴には、「あのヤロー、このヤロー」って思うでしょ。

お金が足りなくて、食うに食えない時に何か盗まれたりしたときには、「ああ、神様が私に、もっともっと素晴らしい力を与えて下さるんだ、有難うございます」と、こういう風に思うことです。なかなか思えないけれども、思えるように、そうなるべく努力しなければいけませんよ。思えなかったら、思えないでいいんだから、「ああ、思えない業が消えますように、世界人類が平和でありますように」って投げ出すんですよ。

神様の世界が地球世界に現われて平和になる時には、おまけなしです。それは、自分の心がすっかりきれいになるときです。自分の心の汚れをすべてきれいにきれいに洗い落して、本当に輝く白光の心にしなきゃ世界平和にならないんですよ。必ず守護霊・守護神・救世の大光明がそうしてくれます。してくれますけど、してくれるその波に、自分が乗らなければいけませんよ。

「ああ、五井先生がああいうことをおっしゃって下さった。私はそれに一生懸命になりましょう」という心になればいいんですよ。そういう心になって実行すればスーと心境が上がります。

神様は、だんだんおまけをしなくなりますよ。光一元、愛一元の白光に輝く心。高慢もなければ卑下慢もなければ、人をやっつける想いもなければ、そういうものが一切なくなって、ただ「有難うございます。神様、有難うございます。こうして生かして頂いて有難うございます。みんなが平和でいてありがとうございます。どうかみんなの幸せが一日も早く来ますように、みんなが愛にみちますように、有難うございます。」

こういう心になり切るように、神様は働いています。だから余計なものは、どんどん剥いていきますよ。わかりますね。

だから何か、辛いことがあったら辛いことがある程、「ああ、神様は私を愛していて下さるんだなあ」とこう思わなきゃいけない。これは昔からいわれていることだけれど、改めて私はそう思います。

辛いことがあればある程、あとは必ずいいから。おできが一番わかります。痛くて痛くてしょうがない絶頂になると、破れて膿が出てくるんですよ。膿が出たらしめたもの。もう治っちやう。一番痛い時は一番治る時ですよ。

出るものは出すのです。一番痛い時にそのまま祈りながら我慢していると、パッと破れます。内臓へいったら大変な病気になるような毒素が、どんどんおできで出ちゃう。そういう風になる。おできばかりではありませんよ。

全部そうです。下痢でも嘔吐でもそうです。下痢や吐くことを恐れなければ、「ああこれによって中の毒素が消えていって、私の体の中はきれいになったんだ、きれいに掃除されたんだ、ありがとうございます」という気持ちでいますと、そうなるたびに体がよくなります。

私がこうなる前に続けざまに下痢ばかりしてました。しかし私はちっとも恐れなかった。「ああ、神様ありがとうございます。これで私の体がすっかりきれいになる」って思ったんですよ。そうするときれいになっちゃいます。体もよくなります。

だから現われてくるものすべてのものに、恐れなくて、「みんな神様がやって下さるんだなあ、ありがとうございます。私の魂を磨いて下さるんだな、有難うございます。私を愛して下さって、私に力を下さる為にこうやって下さるんだなあ、有難いな」という心になってもらいたい。

それが宗教の極意ですよ。そうすると本当に神様と一つになってしまう。自分の中に、ごもくたを置いて、「神様！」といったって、これはだめです。ごもくたを神様の中へ入れなきゃいけません。自分の悪い所は悪いで認めていいんですよ。誰でも肉体界にいるかぎり、悪いことはあるに決まってるんだから。この地球界というのは大変な波なのだから、悪いものがあるにきまってるんです。

「あってもいいから、あったままで」と私がいうでしょ。あるのをなくしてからじゃなく、あるのを持ったまま、自分でそれを認めて「ああ、私はこういう悪い所があったんだなあ、どうか神様、これを一日も早く消して下さいように」といって神様の中へ、世界平和の祈りで入れちゃうわけですよ。そうすると世界平和の祈りの大光明が消して下さるわけ。

自分で自分の欠点を認めなきゃだめですよ。やっぱり欠点を認めて、ちゃんとハッキリ正直に認めて、神様に消してもらうんですよ。そうすると消しやすい。認めないということは、消えてゆく姿にならないんです。自分が高慢なら高慢としましょう。その高慢を認めなくて、自分は高慢じゃないと思ってれば消えないでしょ。

「自分は高慢なんだな」「自分は臆病なんだな」「自分は短気なんだな」というように思うでしょ。思ってそれを消してもらうために「神様、どうぞ一日も早くこの想いが消えますように、世界人類が平和でありますように、私の天命が完うされますように」と神様の中に入れば、神様のほうで消してくれるわけです。

わかりますね。それをうまず絶ゆまずやることです。病気で消してくれるか、貧乏で消してくれるか、人間関係で消してくれるか、とにかくいろんなことで消してくれるわけですよ。

だからあらゆるもの、あらゆることに感謝しなきゃいけない、ということになるわけでしょ。それが宗教の極意なんです。

私は責めてるわけでも何でもない。私の教えは人を責めてない。自分も責めていない。一人も責めていないんです。「消えてゆく姿だ」と赦してる。ただ、”消えてゆく姿”というものはっきり掴まなければだめ。自分で悪いところを掴まえるのですよ。それで消えてゆく姿にしなければだめです。

いい加減にごまかして、悪いことを言いながら、又しながら、「消えてゆく姿なのよ」というのでは、業の中をぐるぐる廻りしてるようなもの。それじゃあ消えやしませんよ。「消えてゆく姿」って思って、神様の中に入れないきゃ。神様が消して下さるんだから。「消えてゆく姿なんだな、世界人類が平和でありますように」と神様のほうへ持っていっちゃう。そうすると神様が消して下さるのです。（後略）

はい、お話は、ここまでです。私が「自分自身の心を見つめて、自分がまだ気が付けない自分、自分に見つけてもらえていない自分に光を当てて、たとえそれがどんな自分であったとしても、すべての自分を無条件で赦し、愛し、認め、抱きしめてみてください」とお伝えしていたのは、自分の中の欠点をいさぎよく認めて、消えてゆく姿として守護霊さまに消していただく一段階前のところで、認めたくないと囁(ささや)くエゴの抵抗に負けないで、太陽のようないのちの光をもって、旅人の自分が自発的にコートを脱ぎ出すような状態にすることです。『北風と太陽』のイソップ寓話のように、私たち自身の心の奥の太陽であるところの守護霊・守護神の心、本心の心、神聖の心を発揮して、心の襞の奥に隠れて見つけられないでいた自分に明るい世界を見せてあげると、心が自然と調和してゆきます。暗く後ろ向きな気持ちが影を潜めてゆきます。自己限定の薄れた明るく前向きな心が当り前になってきます。これは論より証拠ですので、統一 CD をかけながら、ご自分の心を光で照らして、見つけた自分を抱きしめるということを、何回でも何回でもやってみてください。

3. 神聖復活の印

はい、ということで、神聖復活の印を七回組みます。「はい」の合図で、一緒に宣言をしてお組みください。それでは始めます。はい。

神聖そのものの私達が、大自然と生きとし生けるものと人類すべてを抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

以上